総務経済委員会行政視察復命書

議席番号８番　　三田　忠男

１．行政視察日程・目的・内容：細部は全体の別途添付資料をご確認ください。
7 月 23 日：上川町役場　東川町
7 月 24 日：美瑛町役場　芽室町役場
7 月 25 日：JA 士幌町
２．行政視察で検討した、伊豆市に取り入れたい施策、対応
　今の議会での立場から、考察していきます。

１）上川町・東川町とも、議長が行政視察の進行をしていた姿は新鮮でした。また、飲み物等のコースター替わりに、印刷物ある A5 の大きさの印刷された紙が置かれていました。『歓迎　ようこそ大雪山国立公園と写真文化都市「写真のまち」東川へ』『ようこそ鐘の鳴るまち上川へ』は、来訪者歓迎の意図が感じられ非常に感心いたしました。伊豆市でも取り入れたいと思います。進行役の上川町安部議長に確認したところ、笑いながら、「これくらいしかできないからね。」と述べていたが、考えてみると、議員対応は、議員が行うのも一つの考え方と考察いたしました。これも伊豆市議会で対応したいと思います。

２）上川町の入湯税引き上げについて：入湯税の引き上げは、業者側からの提案であったが、経営との関係で小規模事業者の意向確認等慎重な検討が必要であると思われます。
　目的としての税の使い道は①環境衛生施設、②鉱泉源の保護管理施設、③消防施設その他消防活動に必要な施設の整備、④観光の振興等活用できます。
　伊豆市としては、審議会で検討中ですが、市民に伊豆市の入湯税の実態を情報提供し、理解を深めていただき、主要産業である観光業の発展のために有効に活用し、その結果、地域の雇用の創出、経済の活性化、地産地消の好循環等を期待したいと思います。

３）東川町のふるさと納税・ひがしかわ株主制度：ふるさと納税は、地域の活性化、地域のアイデア勝負、都市と地方の交流等地域の活性化に寄与するよう制度と考えていたが、この東川を訪れて、まさにこの感を強くしました。
　元行政マンの町長と議長のコンビネーション、町長と職員の一体感を感じさせられた説明会であり、町全体で東川に誇りとプライドを感じることができました。
　アイデアマンの町長の元、定住者増加策を打ち、教育施設の整備、一流の複合交流館、廃校を利用した日本語学校開設等 8000 人の町とは思えない充実した町に感じました。
　思い切った事業展開を提案するキーマンの存在とそれを支えるスタッフの動きが必要であり、住民サイドからの議会の監視と政策提案、自発的な町民活動等好循環してこそ、地域の

活性化は実現できるものと確信しました。

４）美瑛町の地域課題解決プロジェクト：これは、異業種人材育成研修であり、ヤフー企業との協働事業で、いずれも核となる役場職員の存在があったからこそ実現できていました。

しかし企業が撤退した後、財産として、役場職員内に、地域に活力が生まれ蓄積されたか等多くの課題が残されていると感じた。総括を行い、美瑛町自身が組織として取り組まないと成果が生かされないように思いました。

伊豆市としても、学者・コンサル依存することなく課題を明確にして、学者・コンサルを有効に活用してこそ、後々の議業展開が生きてくると思います。

美瑛町は、「美しい農村景観を生かしたまちづくり」を標榜しているだけあって、基幹産業である畑作地帯が織りなす農業景観が「丘のまちびえい」として注目を集め、人口１万の町に 220 万人が訪れ、「オーバーツーリズム」が起きており、観光客が記念撮影のために畑の中に無断で立ち入り病害虫の伝染の恐れを引き起こしたり、道路上に寝転んで撮影等、農業生産者や交通安全対策等課題を残している様子でした。

伊豆市での筏場のワサビ田景観は、素晴らしく多くの観光客に景観を訪れてほしいと思いますが、観光客のトイレや道路拡張等整備が遅れていることによる受け入れ態勢の遅れにより、弊害が起きています。さらに、観光客にわさびについて、説明を求められることによる農作業への影響が起きているとのことです。

観光地伊豆市を目指しているのだからこそ、早急に生産者、地域住民、観光業者、飲食店、行政、議会等多くの関係者を巻き込んで、伊豆市が一体となり課題に取り組んでいく必要があると思います。

議会としても、関係者各位の課題を整理し世界遺産登録の継続的発展を後押しする政策提言を行う必要があると感じます。ワサビ生産の安定的継続経営のための後継者育成・ワサビ苗の安定的供給体制の確保等経営環境の整備とワサビを活用とした地域活性化策を、「伊豆市わさびの郷構想」（令和元年６月）にある、基本理念の「わさびで人と自然と文化を繋ぎ、伊豆市の力を引き出す」の着実な事業展開を後押ししたいと思います。

５）芽室町：議会改革先進地の芽室町議会の生の声を聴けるのは、議員になってからの念願であった。伊豆市が議会改革、議会基本条例、議会倫理条例を作成するとき、多くの示唆を頂いた議会であった。

細かい項目は他の報告者を参照願いたいが、議会事務局と議長とが一体となり数々の改革を行ってきたのは、やはりキーマンの存在が大きいと感じます。

議会事務局の能力向上を図る、体制整備の保証が、住民のための議会活動の担保になると思いました。ある面、事務局体制の能力が議会の活動の質量を決め、議会の無力が事務局体制の能力を決めるとも思います。

伊豆市議会にない、議会モニター制度、議会アドバイザー、政策形成サイクル導入、議会

白書、議員自己評価制度等大いに参考にし、伊豆市議会の身の丈に合った議会改革を推し進めたいと思います。

６）JA 士幌町のワサビ苗事業の実態把握と意見交換は、伊豆市ワサビ生産者が、この町の農協に「わさび実生苗生産」お願いしていることから、実態把握のため視察を依頼しました。士幌で実生苗生産をお願いする理由、必要性は「伊豆市の気候気温の影響で苗を育てることができない。そこで、年間を通じて気温の低い北海道で苗栽培が始まった。特に夏場の高気温により静岡県で育苗が出来ず、夏苗と秋苗が重要視されている。当組合では、主に夏から秋にかけて、わさび実生苗の出荷を行っている。」（当日説明資料より）

メリクロン苗（培養苗）は、メリクロンという種苗培養技術の名称であり、親株から分裂組織を無菌的に培養し、増殖させることで品質差のない同質の苗（クローン）を作ることができる技術です。

伊豆からパーシャルフリージングで保管されていた種子を受け取り約４か月かけて育苗し、伊豆に戻します。

JA 改革の中で経営的にこの事業の見直しがされていて、存続の危機にあるようです。
伊豆市生産者からの要望や JA 伊豆の国から要請がある場合、伊豆市議会としても連携して行動を起こす必要があると思いました。

３まとめ：いつも行政視察時思うのは、先進地の何処にでもキーマンがあり、それを支える周辺の環境が整っています。その環境の中に、議会もあります。

議会として、正し判断で審査できるよう、各種情報把握、調査活動の必要性を感じます。また、物まねに終わることなく、伊豆市の実情を正しく把握したうえで、身の丈に合った提言を行いたいと思います。

行政視察を通じて、新たな知見を得ることができました。今後の議会活動に活かしていきます。

以上